

# 『自動運転 -システムとサービスの拡張-』

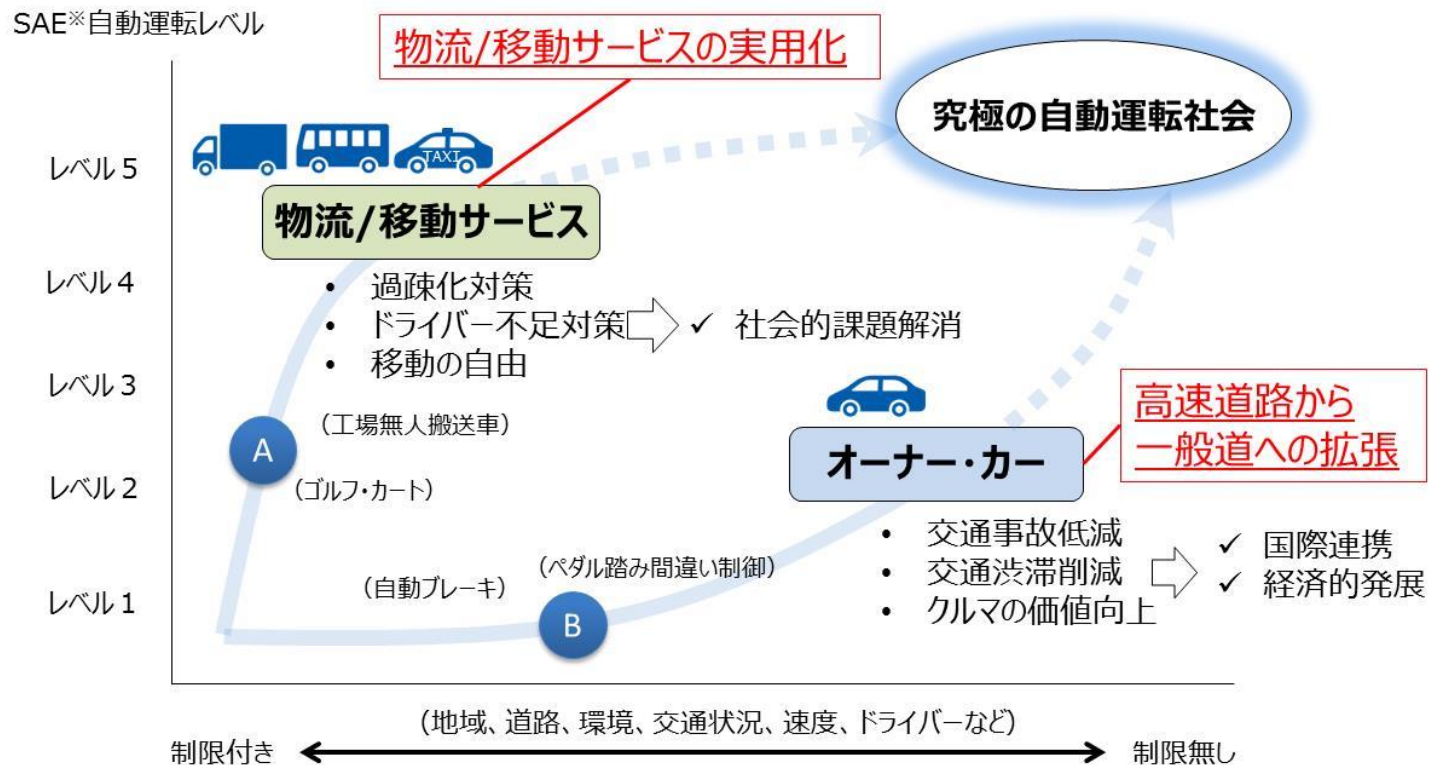
---



# 第2期SIP自動運転 概要

- ・自動運転の実用化を**高速道路から一般道へ拡張**するとともに
- ・**自動運転技術を活用した物流・移動サービスの実用化**することで

交通事故低減、交通渋滞の削減、過疎地等での移動手段の確保や物流業界におけるドライバー不足等の社会的課題解決に貢献し、**すべての国民が安全・安心に移動できる社会**を目指す。

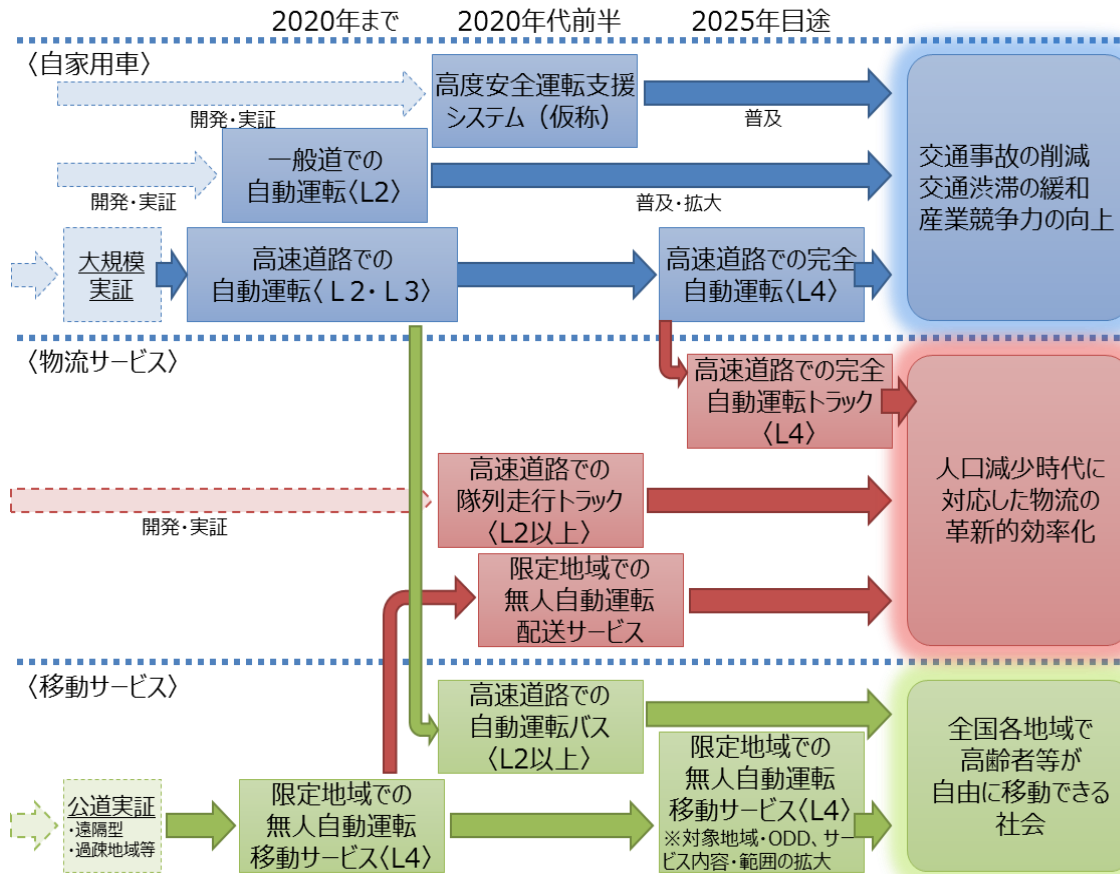


※SAE（Society of Automotive Engineers）：米国の標準化団体

# 目標

## 官民ITS構想・ロードマップ<sup>o</sup>2018

### 〈2025年完全自動運転を見据えた市場化・サービス実現のシナリオ〉

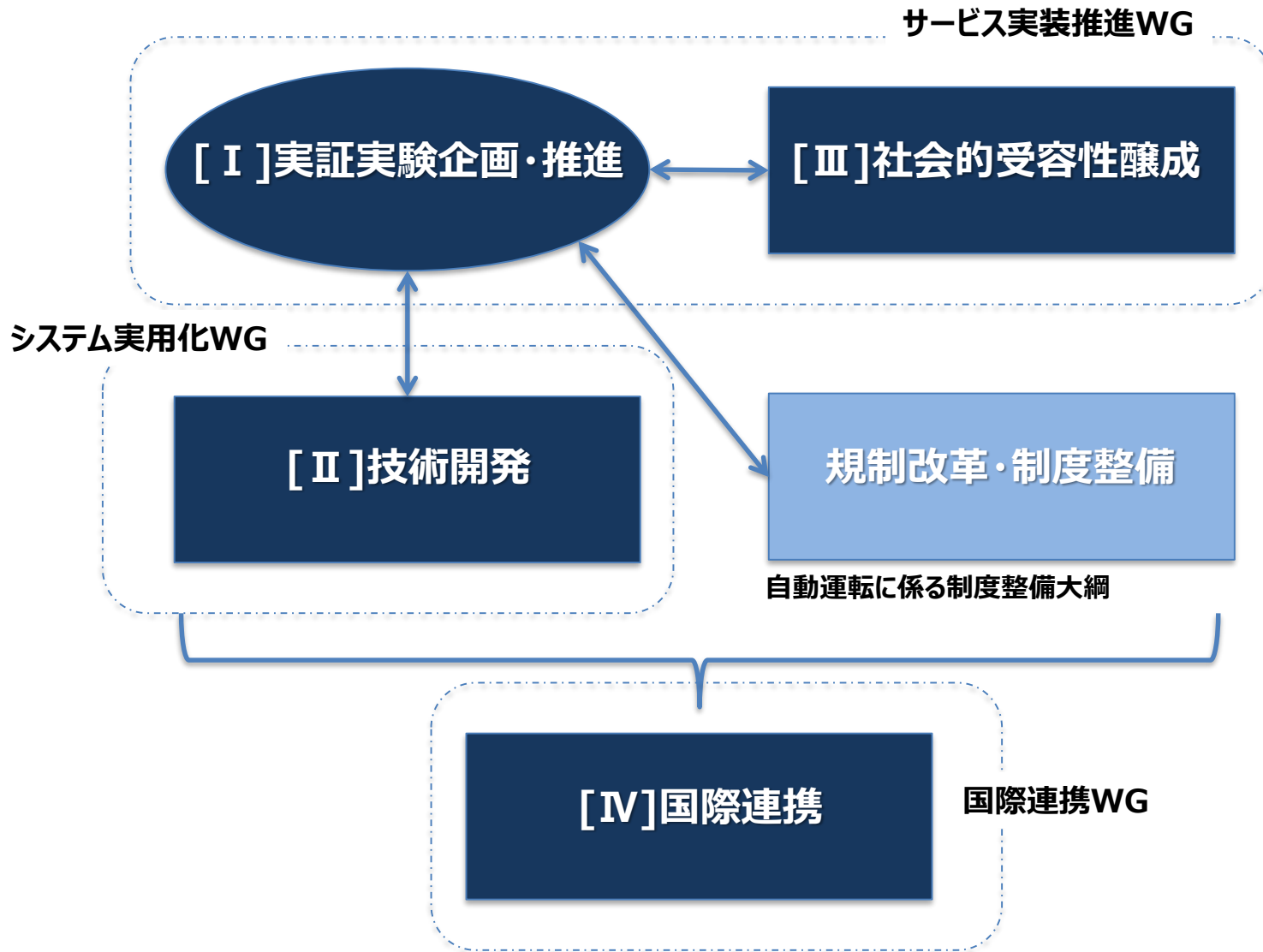


・実現に必要な**協調領域**の技術を2023年までに確立

・様々な**事業者・自治体**等を巻き込んだ実証実験等で有効性を確認し、**複数の実用化事例**を創出



# 研究開発の4本柱



# 第2期SIP 大日程

- ・動向が激しい中、成果をしっかりと出すため、プロジェクトを3年（18年～20年度）で計画。
- ・2020年をマイルストーンとして、メリハリのある研究開発計画案を作成。

分野	WG	18年度	19年度	20年度	出口
[I] 実証実験 企画・推進	サービス 実装推進	東京臨海部実証実験 企画 → インフラ整備等 → 実証実験			2020年オリパラに向け 19年秋から実証開始 実用化へ結実
		地方等での実証実験 地方部での実証実験 ニュータウンでの実証実験			2020年までに限定地域 Lv4移動サービスを実現
		地理系データ自動運転アーキテクチャの構築 信号情報提供技術の開発 仮想空間での安全性評価環境の構築 V2X等通信技術 調査 → 技術開発			実証仕様・標準仕様策定 一般道での運転支援・自動 運転技術の高度化・普及に 向けた基盤技術の構築 交通環境データ活用のため の通信環境の整備等 交通環境データの構築と 標準化・ガイドライン化に 向けた基盤技術の開発
[II] 技術開発	システム 実用化				
[III]社会的 受容性醸成	サービス 実装推進			戦略的な社会的受容性醸成の推進（含む市民ダイアログ） 交通制約者の支援 交通事故低減等のインパクト	普及に向けた 社会的受容性の醸成
[IV] 国際連携	国際連携			SIP-adus Workshop 海外との共同研究	国際連携の強化 国際標準化の推進



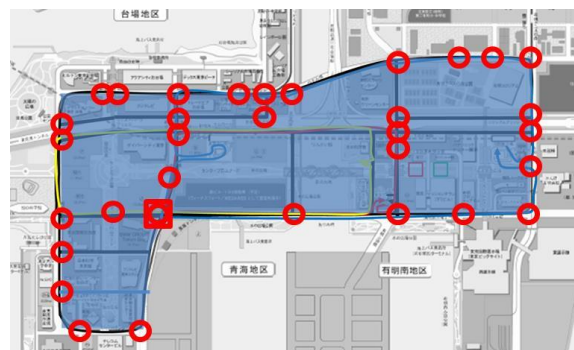
# 実証実験【東京臨海副都心～羽田地区】

- 2019年秋より、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、東京臨海地域（臨海副都心地域／羽田地区の一般道及び首都高）でオープンに参加者を募り実証実験を開始。

## 〔実証内容〕

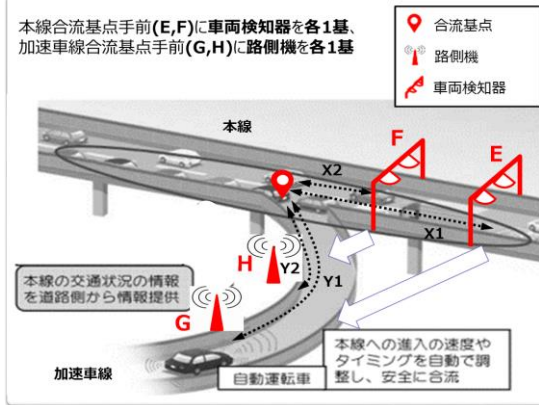
### 信号情報提供

車載カメラで認識し難い環境下でも  
信号の現示及び切替タイミング情報  
を受け、安全かつ円滑な通過を実施。



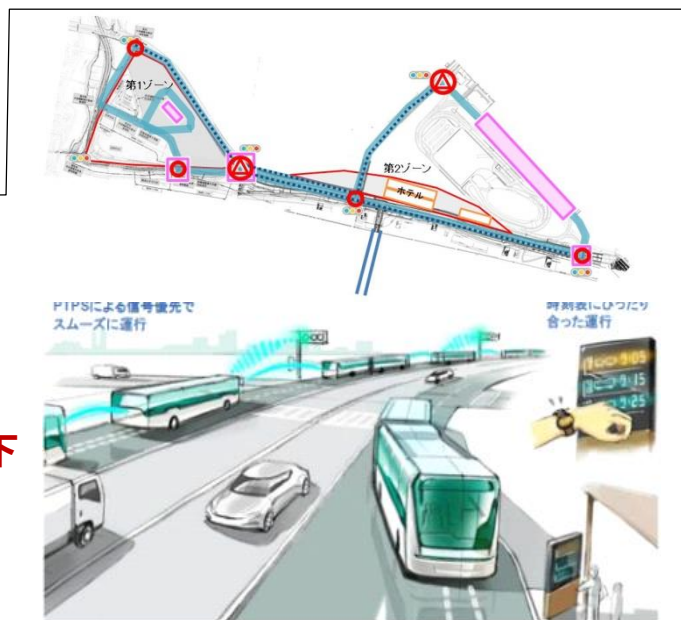
### 高速道本線合流支援

#### 本線側車両情報提供

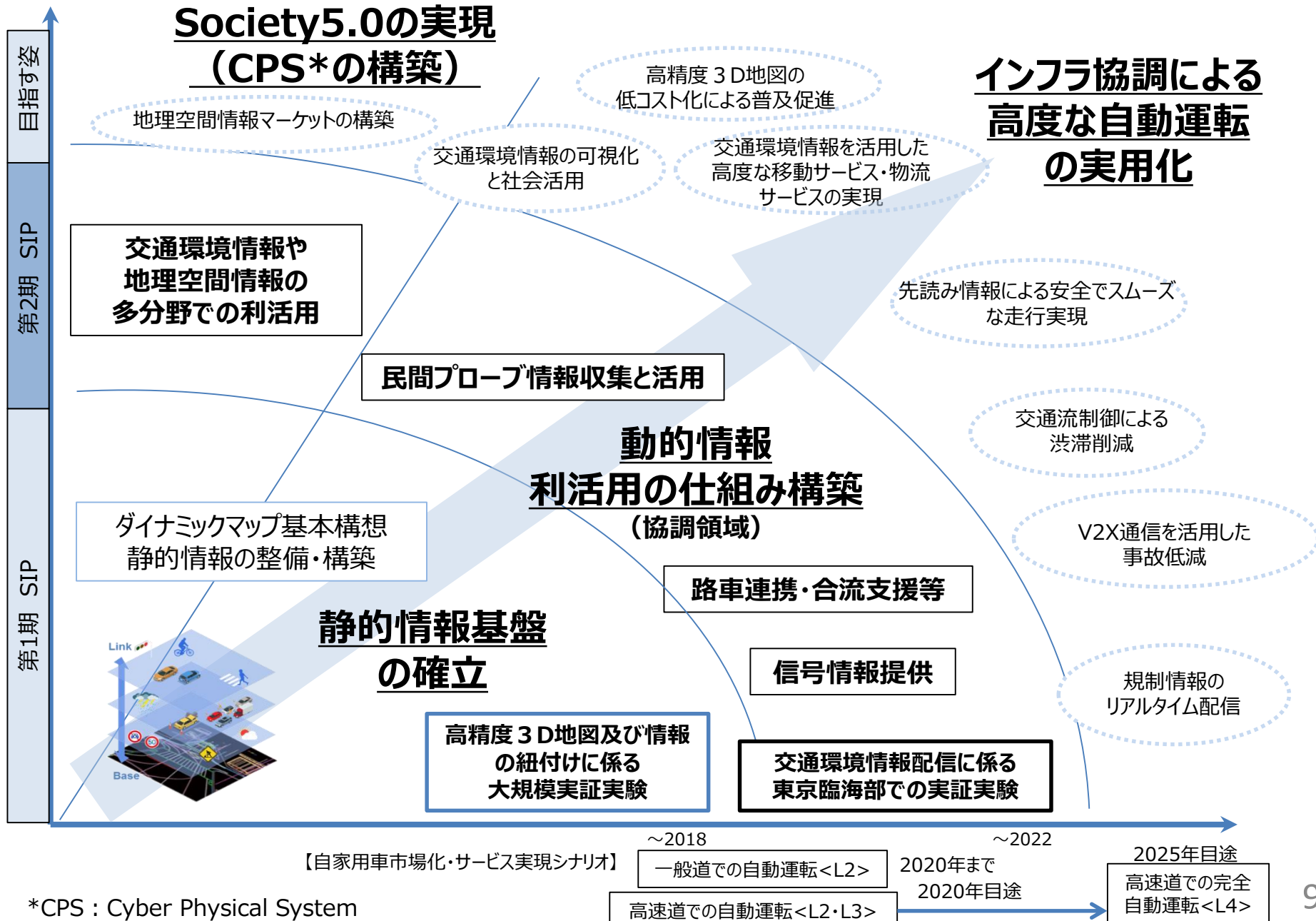


### 公共交通システム (自動運転バス)

自動運転技術を活用した  
次世代型ARTを混流交通下  
において公道実証



# 交通環境情報の構築と活用ロードマップ



\*CPS : Cyber Physical System